

2022年6月17日

## (臨床研究に関するお知らせ)

### 和歌山県立医科大学附属病院第一外科で冠動脈バイパス術を受けた患者様へ

和歌山県立医科大学外科学第一講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われた方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

#### 1. 研究課題名

冠動脈バイパス術において術後早期の大伏在静脈グラフト流速が中長期に静脈グラフト狭窄に与える影響 -後向きコホート研究-

#### 2. 研究責任者

和歌山県立医科大学外科学第一講座 大学院研究生 中村 諒

#### 3. 研究の目的

冠動脈バイパス術において大伏在静脈は10年で60%程度とまだまだ改善の余地があります。大伏在静脈が年月をかけて狭窄・閉塞をおこす因子を本研究で明らかにすることが目的です。

#### 4. 研究の概要

##### (1) 対象となる患者さん

2009年1月から2017年12月までの期間中に、当院で冠動脈バイパス術を受けた方

##### (2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、術前の血液・生理学データ、術中のグラフト（バイパスの通り道）の血流データ、術後生理学データ・造影CTデータに関する情報です。

##### (3) 方法

上記期間において得られたデータを後方視的に収集を行い、複数回施行した冠動脈CTにて大伏在静脈が狭窄を起こしているかどうかで2群に分け、狭窄に影響を与える因子を抽出します。

#### 5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

#### 6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

#### 7. 資金源及び利益相反等について

ありません。

#### 8. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

代表研究者

和歌山県立医科大学外科学第一講座 大学院研究生 中村 諒

TEL : 073-447-2300

E-mail : m09077rn@wakayama-med.ac.jp